

Japanese parturient body mass index and the role in initial nerve block height of women undergoing cesarean delivery with spinal anesthesia

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-06-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 三好, ふたば メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032808

学位論文の要約

Japanese parturient body mass index and the role in initial nerve block height of women undergoing cesarean delivery with spinal anesthesia

帝王切開を受ける日本人女性のBMIは脊髄くも膜下麻酔の初期麻酔高に影響を与える

東京女子医科大学大学院

外科系専攻麻酔科学分野

指導：長坂安子教授^①、野村実教授^②

三好 ふたば

Medicine 2020 Jun 5;99:23(e20584)に掲載

【目的】

帝王切開で主に選択される麻酔方法は脊髄くも膜下麻酔であり、用いる局所麻酔薬

0.5%高比重ブピバカインの拡がり（麻酔高）には多因子が影響を及ぼす。今回我々は

日本の都市部で帝王切開を受ける女性のBMI、妊娠週数、出生体重が脊髄くも膜下麻酔

直後の麻酔高に影響を与えるかどうかを調査した。

【対象および方法】

2014年1月1日から2018年12月31日までの間に東京女子医科大学病院で帝王切開を

施行した631人を対象とし、麻酔記録及び診療録から後方視的にデータを調査した。

脊髄くも膜下麻酔をL3-4椎間腔から施行し、0.5%高比重ブピバカインを使用し、手術

直前の麻酔高、手術直前BMI、妊娠週数、児体重が記録されている401人を対象とした。

全身麻酔施行、双胎妊娠、無痛分娩からの緊急帝王切開移行症例を除外項目とした。

手術直前の麻酔高がTh6以上の高位のものをAdequate analgesia level群、それより

も低位のものをInadequate analgesia level群と定義した。術直前BMI23以上と2

3 未満、妊娠 37 週以上と 37 週未満、児体重 2500g 以上と 2500g 未満で 2 群に分類した。統計学的検討は unpaired t-test、Mann-Whitney U test、chi-square test を行い、 $P < 0.05$ を有意差ありとした。

【結果】

2 群間の帝王切開時の脊髄くも膜下麻酔に關与する因子（緊急帝王切開、脊髄くも膜下麻酔に使用した 0.5%高比重ブピバカイン量、フェンタニル量、脊髄くも膜下麻酔から手術までの時間、麻酔時間、手術時間、フェンタニルを追加投与した症例、経静脈的追加したフェンタニル量、経静脈的に追加した麻酔薬や抗炎症薬）に有意な差はなかった。患者背景（年齢、妊娠前 BMI、高血圧合併妊娠、心疾患合併妊娠、糖尿病合併妊娠）に有意差を認められなかったが、手術直前 BMI ($P=0.020$)、妊娠週数 ($P=0.032$)、児体重 ($P=0.045$) と有意差を認めた。このうち手術直前 BMI < 23 で $P=0.043$ 、リスク比 1.476 (95%信頼区間 1.036-2.103)、妊娠週数 < 37 で $P=0.005$ 、リスク比 1.765 (95%信頼区間 1.225-2.541)、児体重 < 2500 で $P=0.005$ 、リスク比 1.633 (95%信頼区間 1.194-2.235) であった。

【考察】【結論】

帝王切開を受ける日本人女性の BMI は西欧諸国で報告されている BMI より低く、ほとんど正常かそれ以下である。BMI が 23 以下、妊娠週数が 37 週以下、出生体重が 2500g 以下の場合、脊髄くも膜下麻酔直後の麻酔高が Th6 まで達しないリスクがある。